

氏名	吉井信男
学位の種類	医学博士
学位授与番号	博乙第1931号
学位授与の日付	昭和63年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	Mobility of the cervical spine after anterior interbody fusion for spondylotic myelopathy—a radiographic study（頸椎症性脊髄症に対する前方椎体固定術後の頸椎可動性—X線学的検討）
論文審査委員	教授 青野 要      教授 寺本 滋      教授 折田薫三

### 学位論文内容の要旨

頸椎前方固定術の隣接椎間への影響を検討する為、頸椎症性脊髄症症例101例の頸椎軸及び、椎間の可動性をX線学的に計測した。対象は1椎間固定29例、2椎間固定45例、3椎間固定27例である。術後の頸椎軸の可動性は、固定数の増加に伴い減少し、術前後の比較でも同様に、固定数の増加に従い、減少巾が大きくなった。術前後の固定隣接椎間の可動性の比較では、代償性の可動性増大は軽度で、固定数の影響は殆どなかった。頸椎軸の可動性を前屈位と後屈位で比較すると、1椎間固定では前、後屈同程度に制限され、2椎間固定では、前屈が、3椎間固定では、後屈がより制限されていた。再手術例中7例が2椎間固定術後で、1例が1椎間固定術後であり、初回手術時前屈は十分制限されていたが、後屈は殆ど制限されておらず、再発因子の一つとして、後屈制限の不足が示唆される。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は頸椎症性脊髄症に対する前方椎体固定術後の頸椎可動性についてX線学的検討を加えながら研究したものであり、本症に対する前方椎体固定術について、対象101例に1椎間固定、2椎間固定、3椎間固定術を行い、計測法として頸椎軸の可動性はC3とC7の椎体後縁に沿う延長線の交差角を、椎間可動性は椎体上縁及び下縁のなす角を頸椎前屈位、後屈位で計測しその平均値を求め術前後の比較を行っている。以上の研究は整形外科学的にみて重要な知見を得たものとして価値ある業績であり医学博士の学位を得る資格があると認める。